

//REPORT//

令和 5 年度ユネスコスクールオンライン意見交換会

6/7(水)開催 第 1 回

ユネスコスクール関東ブロック大会関連企画「ユネスコの包括的セクシュアリティ教育とは」



ユネスコスクール事務局では、令和 2(2020)年度より、ユネスコスクールオンライン意見交換会を 1~2 か月に 1 回のペースで実施しています。今年度第 1 回目は「ユネスコの包括的セクシュアリティ教育とは」と題して、15 名の参加者と対話の場をもちました。

■ プログラム

開催日時:2023 年 6 月 7 日(水) 16:00~17:00

時間	内容	備考
16:00	オープニング 趣旨説明 ACCU 教育協力部 部長 大安 喜一	
16:05	事例紹介 東海大学 教授 小貫 大輔 氏	
16:25	グループディスカッション 事例紹介を聞き感じたこと、各校の取り組みをお互いに共有します。	※各グループファシリテーター: ユネスコスクール事務局職員
16:45	振り返り グループ毎に、ディスカッションで話したことを発表します。(良かった点、学んだこと、今後活かしたいこと、改善点、メリット・デメリット等)	※各グループ 3~4 分程度で発表
17:00	クロージング	※写真撮影

■ 事例紹介

東海大学教授 小貫大輔氏よりご発表いただきました。

以下、概要です。

はじめにご案内となりますが、東海大学は 2023 年 7 月 30 日にかながわユネスコスクールネットワーク(KAN)、成蹊大学、創価大学、玉川大学、CRI-チルドレンズ・リソース・インターナショナルとともに、「ユネスコスクール関東ブロック大会」を開催いたします(チラシは[こちら](#))。この大会のテーマは「ユネスコスクールの 3 つの柱」です。3 つの柱とは「持続可能な開発および持続可能なライフスタイル」「異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重」「地球市民および平和と非暴力の文化」を指します。大会では神奈川県のある学校を中心として事例発表を行っていただきます。神奈川県の特徴が反映されていると思うのですが、「異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重」の柱については「多文化教育」、「地球市民および平和と非暴力の文化」の柱については「男女平等」に関する事例を取り上げます。本日のオンライン意見交換会のテーマもこの「男女平等」と深く関わりがあります。

さて「男女平等」というユネスコ、世界にとって大切なテーマに対して、具体的にどのような取組が教室内でできるのでしょうか。ユネスコは 2018 年より本腰を入れて「包括的セクシュアリティ教育 (Comprehensive sexuality education: CSE)」という言葉で、つまりは広い感覚での「セクシュアリティ」「ジェンダー」について勉強することが大切であるとしています。そのような教室での取組が、「男女平等」を実現していくためのベースとなり、お互いのことを理解することにつながると考えられています。本日はこの「包括的セクシュアリティ教育」についてお話します。

神奈川のネットワークでは毎年「UNESCO ユースセミナー」を開催しています。このユースセミナーは毎年テーマ(環境、多文化等)を選び、それについて主にユネスコスクールの高校生・大学生そして神奈川県内の外国(人)学校(インターナショナルスクール、民族学校等)の子どもが集まる会となっております。2023 年 3 月に開催した「第 8 回 UNESCO ユースセミナー」¹(チラシは[こちら](#))のテーマは「ジェンダーとセクシュアリティ」でした。このユースセミナーではまずイベントとして、講演会、そしてイベントの翌日より 1 泊 2 日で「滞在型イベント」をそれぞれ開催しました。具体的にはユースによるジェンダーとセクシュアリティを理解するためのワークショップ等を行いました。「神奈川県」「ユネスコスクール」という枠に限らずに、参加者が集まってくれました。

「UNESCO ユースセミナー」はここ数年、コロナ禍のため延期という状態が続いていました。結果として、「第 8 回 UNESCO ユースセミナー」はコロナ禍の 2 年半ほどの時間をかけて準備をしたうえで実現しました。高校生・大学生が勉強をしたうえで様々なワークショップを考えてくれて、実施することができました。イベントの開催に向けて、まずはユネスコが提唱している「包括的セクシュアリティ教育」とは何かということ勉強しようということで、ユネスコが作成した『[国際セクシュアリティ教育ガイダンス](#)』を大学生と読み、何が書かれているのかを勉強するところから始めました。その結果、完成したのが、[「包括的セクシュアリティ教育\(CSE\)メロマップ](#)」です。「包括的セクシュアリティ教育」には様々なキー

¹ 「第 8 回 UNESCO ユースセミナー」の当日のレポートが[こちら\(東海大学 HP\)](#)です。また当日の様子を学生さんがまとめた動画が[こちら\(YouTube\)](#)です。ぜひご覧ください。

ワードがあり、そのキーワードを地下鉄の駅に見立て、(そしてテーマ²を路線に見立て)、地下鉄路線図のようなものを作ってみようというアイデアが生まれました。これは、かながわユネスコスクールネットワーク(KAN)に加盟されている高校の先生からの宿題でもありました。

では「メロマップ」の中身を見てみましょう。ひとつひとつの「駅」をたどってみると、例えば「(テーマ:)健康とウェルビーイング(幸福)のためのスキル」線にはどのような駅が含まれているでしょうか。「(キーワード:)交渉する力」駅や「はっきり主張する力」駅が含まれています。キーワードについて考えていくと、複数のテーマに関連するキーワードがあることに気づかされます。私たちは多くのテーマに関連するキーワードを「ハブ駅」として見立てました。(駅の並びについては)似たもの同士のキーワードとキーワードを隣同士の「駅」として見立てていきました。結果として「包括的セクシュアリティ教育」が「街」として、その姿が浮かび上がってきました。私たちは「セクシュアリティ教育」は子どもたちの「ハピネス/ウェルビーイング」のために行くと捉えています。なので「街」(メロマップ)の真ん中には「ハピネスパーク」を置きました。また 8 つの路線(テーマ)をイラストで表しました。私たちはこのイラストを「フラッグ(旗)」と呼んでいます。どのようなイメージが良いか考え、デザイナーの方にアイデアを絵にさせていただき、8 つのフラッグが完成しました。その後、2021 年度にはこの地下鉄が通っている街を絵に描くというワークショップを開催しました。絵を描く前にはどのような路線(テーマ)が走っていて、どのような駅(キーワード)があるのかを知る必要があります。それを勉強してから、絵を描きました。当日描いた絵をベースとし、デザイナーの方にデザインしていただいて完成した絵が以下です。



(提供:東海大学教授 小貫大輔氏)

絵を描くことにより、頭だけでなく感情をつかってディスカッションをする良い機会となりました。この方法を踏まえて、2023 年 3 月の「第 8 回 UNESCO ユースセミナー」でも、絵を描くことになりました。1 泊 2 日と十分に時間を取ることができたので、8 つのテーマそれぞれを深堀りしました。またテーマに関して、高校生・大学生が主体となって事前学習(ワークショップづくり)も行いました。具体的には、高校生・大学生が実際に学校に赴き実験的にワークショップを実施させていただくなかで、ワークショップをつくっていきました。そしてそのワークショップをユースセミナー当日に参加者に体験してもらいま

² さまざまなセクシュアリティのテーマとして、ユネスコは 8 つのテーマを掲げており、このメロマップにはこの 8 つのテーマに即した 8 つの「路線」があります。

した。その中で心に残ったことを絵にしてもらい、8枚の絵を描きました。

「メロマップ」を見ていただければ分かるように、ユネスコは「セクシュアリティ教育」を包括的なものとして捉えています。従来の性教育とは異なり、広いテーマを扱うことを提案しています。例えば、8つのテーマのなかには「人間関係」や「価値観、権利、文化とセクシュアリティ」が含まれています。文化によっては個人のセクシュアリティが圧迫されている場合もあります。批判的な目で自分たちの文化・社会を見直すこと、そして自分の価値観とは何かを考えることが含まれるテーマです。「ジェンダーを理解する」というテーマは、男女の平等の実現を中心にLGBTQの理解についても扱うテーマです。もちろん、そういった社会的な課題だけでなく、生物学的・医学的な意味での性に関する知識も学ぶ必要があります。ユネスコが提唱する「広く捉える」という考え方の大切さは世界に伝わっていていると感じています。

授業への活用方法としては、例えば(メロマップの)「フラッグ」が何を指している絵なのかを考えるだけでも、授業になると考えます。そして「セクシュアリティ教育は何のためにあるのか」「目的はひとりひとりが幸せになることである」といったことに思い至ることになるでしょう。「メロマップ」や「フラッグ」をぜひ授業に役立てていただきたいと思います。

■ ディスカッション

東海大学教授 小貫大輔氏のご発表を受け、参加者同士の対話の場が持たれました。以下、話し合われた主な内容です。

-
- (セクシュアリティ教育について)保健体育的な話にとどまらず差別や偏見や人権といった視点を含んでいる。
 - SDGsのテーマが英語の教材のテーマとして扱われていることがある。例えば女性の職場でのハイヒール着用の問題が扱われている。問題に対する関心を高めていくうえで活用できるのではないか。
 - 男子校で男子がセクシュアリティ(教育)に取り組みにくいといった話もあることが考えられる。その参考となりそうなのが、例えばある学校では生理について調べる生徒のグループがある。男子生徒も一緒に、女子生徒から生理に関する情報を聞いたり、生理用品を見たり体験したりしている。そのようなことを通じて、女子生徒の感じている生理中の苦しさ等に共感できるようになったという。そのような形で学校教育にセクシュアリティ教育を取り入れていけるのではないか。
 - 校内で昨年度は教員に向けてLGBTQに関する研修を行った。今年度は教員と生徒双方に向けた研修を行う予定である。「性別」をどのように捉えていくかということを教員も考えている。
 - (質問)「包括的セクシュアリティ教育」とはユネスコにおいてどのくらい重点が置かれているものなのだろうか。

(上記に対する小貫氏の回答)ユネスコの「包括的セクシュアリティ教育」に関する中心的なメンバーの一人に(「第8回 UNESCO ユースセミナー」内で)ご講演をいただき、(セクシュアリティ教育について)SDGsの観点から考えているということが分かった。「誰一人取り残さな

い、「健康」、「男女平等」が SDGs ではキーワードとなっている。そして(ゴール 4)「教育」でも、ターゲット 4.7 内で「男女の平等」が掲げられている。SDGs の登場により、ユネスコ内において「包括的セクシュアリティ教育」がプッシュを受けたと講演内で伺った。「ジェンダー主流化」といって、ユネスコのみならず、国連は社会開発を進めていくときにも、「女性が主役であること」「女性がエンパワーされること」が重要であると強調してきた。それらが達成されなければ、様々な課題が解決されないからである。ユネスコには、学校教育で具体的にできることに取り組む必要があるという認識がある。また学校教育において、それを「意識化」する必要があり、それは「セクシュアリティ教育」と呼ぶことができるのだと私は理解している。具体的に学校現場でジェンダー平等を進めるためには、一人一人が自分のこと、性のことを学ぶことからスタートすることが重要であるという意味で SDGs やユネスコスクールの課題とつながっていると考える。そしてそれが平和につながることに私は確信をもっている。その平和とは、「男女の平等」ということから生まれる「平和の文化」と考えている。

- (ディスカッション内で) 体育の授業でどのようなことに配慮が必要であるかについて話をした。ある学年では、「生涯スポーツ」ということで、男女ともに体育を行うこともある。「男女平等」をどのように生徒が理解して、男女合同であっても楽しく体育の授業を進めていくことができるかについて生徒たちに伝える機会となっている。
- すべての生徒を「さん」付けで呼ぶことにより、違和感なく接することができるようになった。また制服についても女子生徒がスラックスやネクタイを選べるなど、自由な形に制服を変えた。
- 校内で「誰でもトイレ」をつくっているという事例を聞き、自校でもぜひ取り入れたいと考えた。



[オンライン意見交換会の様子]

※オンライン意見交換会に関し、お申込み方法などの詳細は、[ユネスコスクール公式ウェブサイト](#)内「最新情報」、[ユネスコスクール公式 Facebook](#)に掲載中です。ぜひご参加ください！